

学校紹介
新聞

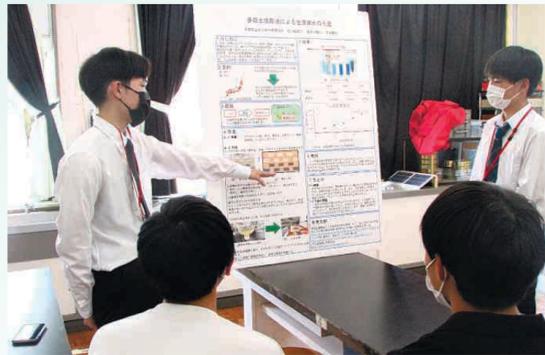
茨城県立 日立第一高等学校・附属中学校



◆校長 磯邊 裕一
◆生徒数 高校 711人
 中学校 240人
◆創立 1927年
◆住所 日立市若葉町
 3の15の1

くぐつと
カリキュラム

サイエンス科3年次の生徒による「ポスターセッション」



科学研究生かし研さん

私はサイエンス科科目で「Pythonを用いた顔認証と非接触型体温計測システムの制作」を研究しました。頼もしい仲間と議論を重ね、このテーマに至りました。先生や茨城大学工学系大学院生からアドバイスをもらい研究を進めています。茨城県や常陽銀行のコンテストで受賞しました。このような魅力あふれる高校です。(高校3年 広津明音)



広津明音

本校では自ら実験を計画し、好きな研究をする授業があります。私たちの研究「光合成を利用したマグネシウム発電」は、全国の高校生や大学生が発表する電気学会学生発表会で、中学生ながら優秀賞を受賞しました。今後も本校の科学教育を生かし、日々研さんしていきます。(中学3年 和田こはな)



和田こはな



くぐつと 学校です!



全力で取り組む学校行事の1つ「野球応援(おんげん)」

自ら考え、挑戦する



及川隆太



落合七美

日立一高は、自主自立の精神で生徒が自ら考え、行動し、高め合うことができる学校です。文部科学省よりSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受けている県内有数の学校で、科学教育に力を入れています。部活動や学校行事に対する熱量は並外れたものがあり、やけどしてしまうほどの熱い

ートを持つ生徒が、夢の実現に向けて日々努力しています。(高校3年 及川隆太)
附属中は、やりたいことに自由に挑戦できる学校です。勉強が得意な人もいれば、部活動で優秀な成績を収めている人もいて、個性豊かな生徒がたくさんいます。SSHに指定されていたり、語学教育に力を入れたり、高校の内容に触れられたりして、環境が整っています。自分の興味や将来の夢について深めることができる、それが附属中の良さです。(中学3年 落合七美)

カナダオンライン研修の1コマ



生きた英語



齋藤洸樹

海外研修で解決策議論

昨年度、国際交流の一環でカナダオンライン研修を行いました。カナダの大学生とSDGsや世界的な課題の解決策について英語で議論することが活動の中心です。不安もありましたが、大学生にわかりやすく説明していただき、楽しんで会話を続けられました。今年は現地での海外研修があります。生の英語に触れるよい機会になると思います。(高校2年 齋藤洸樹)



私たち附属中10期生は、来年2月にシンガポールにシャハポロミタ語学研修に行きます。海外に初めて行く同級生が多く、期待で胸を膨らませています。私は「生きた英語」に触れることを大事にしたいです。現地で話すときも間違いを恐れず、英語の授業で培った英語力を存分に発揮したいです。(中学3年 シャハ ポロミタ)

わくわく 学校行事



レクリエーションを通して楽しむ中学生と高校生

中・高生が学年超え交流

普段は同じ校舎で生活している中学生と高校生が関わり合いを持つ機会は、意外と少ないです。そんな状況を変えるため、中学・高校の生徒会が中心となって企画・運営を行った「中高合同レクリエーション」。中学生・高校生の学年、クラスの枠組みを超えて生徒が交流し、みんなでミニゲームを楽しみました。

企画の内容を決める話し合いでは、数々のアイデアがあふれ出る中学生と、経験豊富で冷静な高校生たちが意見を交換し、どうしたら生徒同士が交流を深め、楽しむことができるのかを考え、試行錯誤する姿が見られました。

今回のレクリエーションをきっかけに、中学生と高校生がお互いに良い影響を与え合って、学校にますますの活気を与えてくれることを信じ、こうした活動が今後も続いていくことを願っています。

(中・高生徒会)

次回は9月13日 県立江戸崎総合高校です

茨城新聞 第14回 新聞感想文コンクール

新聞を読んで感じたこと
あなたの言葉で書いてみよう



応募資格

小中学校や高校に在学する児童・生徒。
小学1～3年、小学4～6年、中学生、高校生の4部門

応募課題

2023年1月以降に載った新聞記事を読んだ感想。
小学1～3年は家族に記事を読んでもらい、感想を作文にしたものも結構です。
※著作権は茨城新聞社に帰属します。作品の返却はしません。

応募方法

- ①学校単位でも個人でも応募可能(未発表作品で1人1点に限る)
- ②募集要項チラシ裏面の専用の原稿用紙(コピー可)か、市販のB4版400字詰め原稿用紙を使用してください。
- ③専用の原稿用紙の場合は、記入欄に必要事項を書くこと。市販の原稿用紙の場合は、1ページ目の1行目に題名、2行目に学校名、学年、3行目に氏名(ふりがな)、4行目に新聞名と掲載日を記入し、5行目から書き始めてください。作品の最後に住所、電話番号、保護者氏名を記入してください。
- ④原稿用紙と同じ大きさ(B4)の紙に、読んだ記事(コピー可)を貼り、原稿とセットして送付する。
- ⑤小学1～3年は400～600字、小学4～6年は600～800字、中学生、高校生は800～1200字。
- ⑥学校単位で申し込む際は、学校名と応募児童・生徒の名簿(漢字・ふりがな)、担当教諭名、連絡先を添付してください(体裁自由)。

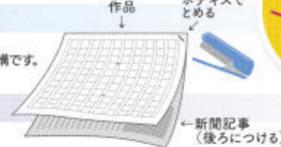
応募先

〒310-8686 水戸市笠原町978-25
茨城新聞社販売局 新聞感想文コンクール係

応募期間

2023年7月3日～11月6日

応募締切
2023年
11月6日
必着



表彰

- ①文部科学大臣賞、知事賞、県教育長賞、茨城新聞社長賞、茨城会長賞など。
- ②上位入賞者は、2023年12月、茨城新聞の紙面で発表します。
- ③表彰式は、2024年2月3日(土)に水戸市内で開催予定です。

■主催:茨城新聞社、茨城新聞茨城会 ■後援:文部科学省、茨城県、茨城県教育委員会
■協力:県新聞教育研究会、県教育研究会、県学校長会、県高等学校長協会、
県PTA連絡協議会、県高等学校PTA連合会、県私学協会

お問い合わせ

茨城新聞社販売局 新聞感想文コンクール係
TEL029(239)3030 平日9:00～17:00

ご自宅で新聞を購読されていない方は茨城新聞を
7日間無料お試し読みできます。
お申し込みは ☎0120-029-218

